

# Jクラブと通信制高校の緑の縁

年1回のホームゲームが深めるキズナ



中央高等学院 斉藤守学院長 (右)  
サッカー元日本代表 北澤豪氏 (左)

「子供たちの成長のためにも『GREEN DAY』は欠かせません」(斉藤学院長)「この経験が、普段接している先生への感謝や理解につながると思います」(北澤氏)



吉祥寺本校、池袋校、渋谷原宿校、横浜校の生徒たちが一堂に会した「GREEN DAY」

サッカーJ2リーグの東京ヴェルディが、10月22日に味の素スタジアムでのホームゲームを、「GREEN DAY」として開催した。

GREEN DAYとは、東京ヴェルディのコポレイトパートナーとして今年で3年目となる中央高等学院のサンクスマッチである。

## 元気になる、 社会を知るキッカケ作り

今年で開校33年目の中央高等学院は、いじめなども含めた諸処の事情により、全日制の高校に通えない生徒たちの受け皿になっている、いわゆる通信制高校、サポート校だ。吉祥寺本校、池袋校、渋谷原宿校、横浜校の現役生徒の合計は2500

人に登る。

「同年代の子供たちに比べ、やや心が弱い部分がある本校の生徒たちが、スポーツに関わり元気になるキッカケ、社会を知るキッカケを作るために、ヴェルディのスポンサーを始めました」と、斉藤暁副学院長は話す。

## 実行委員会の生徒たちが 中心になって実施

3度目となる今年のGREEN DAYでは、スタジアム周辺の清掃、収益を東日本大震災復興にあてるグッズの販売、東京ヴェルディOBの北澤豪氏によるサッカースクール、フリーマガジンの配布などが行なわれ、約1000人の生徒が参加した。

実は、これらのイベントは、インターンシップという形でホームゲーム運営に携わった実行委員会「キズナ」の生徒たちが中心になって行なったものである。

清掃はもちろん、グッズは生徒が考案したキャップとバッジを自らの手で販売し収益金は東日本大震災の被災地に届けられた。サッカースクールに参加した生徒は、北澤氏に教えることと、一緒に参加した小学生に教えることを同時に経験した。

「生徒たちは二面性を持ってグラウンドにいてくれましたし、この経験が、普段接している先生への感謝や理解につながると思います」(北澤氏)

フリーマガジンも当日の配布だけでなく、紙面では日テレ・ベレーザの

岩清水梓選手や、震災復興団体「OVE FOR NIPPON」のキャンドルジュン氏に話を聞いている。

「ヴェルディの成績がどうあれ、これからも全面的にサポートしていきます。子供たちの成長のためにも『GREEN DAY』は欠かせませんから」(斉藤守学院長)

ちなみにGREEN DAYという名前は、中央高等学院のイメージカラーも緑だったことから名付けられたそう。東京ヴェルディと中央高等学院の縁の絆は、年を重ねるごとに深まり、その縁は広がっていくとだろう。